

こもれび通信 後期号

児童発達支援センター あすなろ学園 発行責任者：島崎利行

「令和5年度を振り返って」

事務局長 三木由美子

今年も退園式の季節となりました。子供達それぞれの1年間の成長を実感する季節でもあります。1年前は、新型コロナ対応により行事や親子通園が制限される中で3年間を過ごした子供達の退園式でした。その後、5年度に入り5月に、新型コロナウイルス感染症が5類移行になったことで、親子で遊ぼう集会や秋祭り集会などの行事で以前のようにご来賓にも参加いただくなど、皆で楽しい時間を共有することができました。療育や行事では職員の工夫があり、また、ホームページのリニューアルや保護者との連絡アプリの導入など、情報関連の整備にも努めた1年でした。

そして、地域支援事業では、相談事業や保育園・幼稚園などへの巡回相談、保育所等訪問支援を行う中で、各園や小学校の先生方、戸田、蕨、両市の福祉・保健部門とのつながりを持つことで支援を進めることができました。

先日、退園児童が保護者の方と遊びに来てくれて、成長した姿に喜ぶ職員を見て、長年続いてきた学園ならではの思いがありました。今後も、職員一同、地域の子供達とご家族に寄り添いながら支援に努め、関係機関の皆様のご協力と連携のもと、児童発達支援センターとしての役割を果たしてまいります。

「今こそ、地域につながるを」

地域支援課 課長

「この1年の成長を感じます。でも気になるお子さんなのです。この子ども自身が本当にしたいことがなかなか分かってあげられないのです。」巡回相談でのあるお子さんに対する担任の先生の言葉でした。子どもたち一人一人を大事にしている先生方だったので少し意外にも思いましたが、もっとその子どもの内面を捉えたいという先生方の熱い思いを感じました。同じように保護者の相談においても「どうしてそうするのだろうか?」「どうしてそう言うのだろうか?」と、子どもの言動から背景となる子どもの心のうちをやわらかい温かなまなざしをもって考えている保護者に会うことが多くなりました。子どものことを知りたい、分かってあげたい、そんな子どもの立場に立つとする姿勢が、その子どもの本質をみることに繋がると思います。

歴史を振り返ってみると、かつて子育ては家族みんな、近所、地域で子どもを見守っていました。今の社会だからこそ、子どもを主人公にして誰もが安心して心地よく過ごせるように、家庭、保育園、幼稚園、そしてこの地域で支援されている皆さまと今できることから取り組み、日ごろからのつながりをさらに深めていきたいと思っております。

「通園を振り返って」

通園課 課長補佐

ある日の園庭遊び。R君が担任に期待の視線を送ることで始まった追いかけっこ。「まてまて～」と楽しそうに走っている2人の姿を見て、違う遊びをしていた子も大人と一緒に次々と加わり、いつの間にか大集団で追いかけっこが繰り広げられていました。誰に追いかけられているのか、誰を追いかけているのか分からなくなっているけど、みんなで走ることが楽しいのだと感じました。この場面に限らず、「楽しいことを大人や友達と一緒にやりたい」という子ども達の姿がたくさん見られるようになっていきます。それは、関わる大人が日々、子どもの興味関心に寄り添い、「楽しかったね」と共感し合ったこと、「もう1回」の要求にしっかり向き合ってきたこと、「出来たね!上手!」とたくさん誉め認めることを大事にしてきたこと。そういったやりとりの積み重ねが、「これが好き」「この人とやりたい」という気持ちとなり、関わり合える人の広がり遊びの豊かさに繋がったのだと思います。何よりも、人との関わり合いの中で見られる子ども達の表情が本当に豊かになってきたなぁと嬉しく感じます。

これからも、「いっしょにあそぼう! いっぱいわらおう!」の学園テーマを軸としながら、保護者の皆さまと一緒に子どもの願いや気持ちに丁寧に寄り添い、子ども達一人一人が学園で安心して伸び伸びと自己発揮できるよう支援していきたいと思っております。

～退園する今、学園生活を振り返って～

今年度退園する子ども達の保護者の皆さんに、学園生活を振り返って感じることを、綴って頂きました。

H・Yさん(入園3年目)

カンガルー通園し始めた頃、我が子は仰向け寝ばかりで、座位は大人の支えがあって数秒程度でした。それから4年、学園で過ごした日々が息子を成長させてくれました。生後すぐから、会話は難しくても声をかけることは必要と思い、息子とおしゃべりしてきました。そこに先生方が加わり、たくさんのおしゃべりのおかげで、今では表情や身振り手振り、声色を駆使し、意思表示するようになりました。問いかけの内容も理解しているのではと感じるほどです。運動も、リハビリやるぞ！の雰囲気嫌いな息子に遊びの延長で楽しませながら体を動かすことを促し、応援、できたらたくさん褒めてくれる先生と褒められて伸びる息子。そして少し難易度を上げてまた新たな挑戦。その繰り返しが息子の背這いと寝返りによる移動、座位の安定を高めてくれたと思います。先生を中心に、学園に関わる方々、お友達のママ達も息子を見守り、成長や拍手に喜んでくれたことは私の喜びでもあり感謝の気持ちでいっぱいです。毎朝、「あすなる行く？」と聞くと元気よく「はいっ！！」と嬉しそうに返事をする息子も同じ気持ちだと思います。退園はさみしいですが…本当にありがとうございました。

H・Rさん(入園3年目)

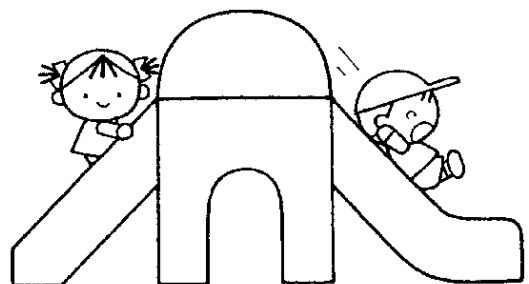
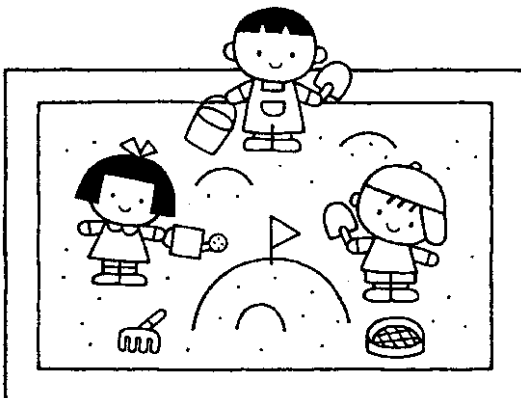
カンガルー通園で2年間、入園してから3年間お世話になりました。18qモノソミー・リング18症候群という染色体異常があり、合併症や発達の遅れがかなりありました。通園する前はできないことばかりに目がいき、前向きに子育てができていなかったと思います。最初は息子のわずかな成長を大袈裟ほど褒めてくれる先生方に少し戸惑いましたが、それを見て関わり方が分かるようになりました。人に興味がなく自分の世界だけで過ごしていたので今まで以上に声かけや触れ合いの時間を大切にしたり、自分の気持ちを伝える第一歩として大好きなくすぐりを大人の手を引き寄せるとまたやってもらえる、と要求することを覚えてもらいました。苦手な遊びも1回だけでもやってみようと誘いかけ、徐々に自信をつけさせました。今では大人が大好きで、おもちゃや遊具で遊ぶことも増え、目が離せないほどわんぱく男子に成長しました！私自身も先生方とお話することで、何度も精神的に支えてもらいました。本当に感謝しています。まだまだできないことが多いですが、ゆっくり成長を見守っていきたいと思います。

T・Bさん(入園1年目)

My son has changed a lot since he entered Asunaro Gakuen! Thank all the teachers who are very patient, kind to children. My son knows to talk in Japanese, he knows how to play with children. He knows how to listen a little, he will understand a little.

和訳

息子はあすなる学園に入学してから大きく変わりました！とても忍耐強く、子どもたちに親切なすべての先生たちに感謝します。息子は日本語で話すのが上手になり、友だちと一緒に遊ぶ方法も分かるようになりました。彼は話を聞くことも少し出来るようになり、少しずつ理解する力が成長していくと思います。



N・Kさん(入園3年目)

おしゃべりができないため拒否の時は「キャー」と奇声を上げる。これが辛くて本当に嫌でした。息子になんとか機嫌良く居て欲しくて、じっくり付き合って満足してもらうしかありませんでした。毎日商業ビルのエレベーターに20分、30分と乗り続けたり、毎日のように公園を3ヶ所もハシゴしたり、コミュニティバスに毎日のように乗ったり。それぞれ同じことを1ヶ月以上続けました。学園終わりが私の体力勝負の時間でした。弟をおんぶして。「キャー」を聞かないで済むならの一心でしたが、息子の楽しそうな表情を見ていたら、まあ仕方ないかと。私もさすがに頑張っていると実感できました。

6歳になって『イヤ!』とおしゃべりを始めて、辛かった奇声も日常的に聞く事はなくなりました。今は携帯の写真で行きたいところを選び、長々と遊ばなくてもある程度で切り上げて帰ることができます。あの頃、とことん満足するまで付き合っていたことはずっと大切な思い出になりそうです。

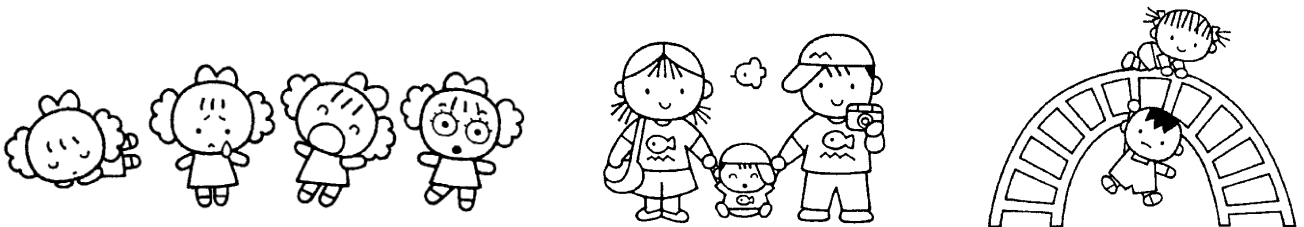
S・Mさん(入園3年目)

入園当初の息子は自分の感情を言葉にできず、おもちゃの取り合いでお友達にケガをさせてしまうこともしばしば。そんな息子を先生はありのまま受け止め、とことん寄り添ってくれました。私自身、息子と接する際に大切にしていたことは、息子の気持ちになって考えること、楽しい、哀しい気持ちを一緒に共有すること。そしてとにかく伝え続けることでした。すぐには分からなくてもいつか伝わるはず、そんな気持ちで気長にかまえようと先生が声をかけてくれたことを覚えています。そんな息子も今では、私が少しでもケガをすると「大丈夫? いたいいたいのとんでけー!」と自分のことのように心配してくれる、相手を思いやる心を持ってくれるようになりました。

この3年間で、できることがどんどん増えた息子。どんな些細なことでもできたことを見つけて、嬉しそうに報告してくれた先生には、感謝の気持ちでいっぱいです。息子の気持ちを第一に考え、信頼関係を築いて下さったおかげで、この学園生活で息子のほじける笑顔をたくさん見ることができました。先生方、本当にありがとうございました。

S・Kさん(入園3年目)

息子の言葉が出ないことをきっかけにあすなろ学園を知ってから早いもので、カンガルーの頃から3年半もお世話になりました。「普通」に幼稚園に行き「普通」に小学校に通うものだと考えていた私にとって多種多様な子どもたちが集まるあすなろ学園は衝撃的でしたが、それまで悩んでいた我が子との接し方、考え方など多くのことを学ばせて頂きました。学んだ中でも特に大事にしている事は「子供の感性を大事にすること」です。興味を持った事、真剣に取り組もうとしている事に関してはいきなり否定せず一度受け入れた上で、寄り添えるものにはほどほどに後押しすることで、親子で楽しさや達成する喜びを共有したりしています。親視線だと気づかないような小さな成長を事細かに見守ってくださる先生たちのおかげもあって、息子には安心できる大人の存在がたくさんできました。成長著しい息子につい期待をかけてしまいがちですが、息子のペースを大事にしながら共に歩いていこうと思います。



～カンガルー通園を振り返って～

親子での様々な遊び合いを通して、「こんなことが好きなんだ、苦手なんだ」とわが子発見をしたり、「楽しいね！楽しいね！」の気持ちの通い合いを大事にしているカンガルー通園。今年度は、3グループ合計で、39組の親子が参加してくれました。

U・Mさん(1歳児)

最初は園庭の芝生に入ることを怖がったり、母親から離れなかつたりしていたので心配もありましたが、今ではあすなろ学園が大好きになり、カンガルー通園に楽しく通っています。いつもたくさん声をかけて下さり、温かく迎えて下さる先生方には感謝の気持ちでいっぱいです。

日々の子育てで、悩みは週単位で変わることも多く、カンガルーの先生方に都度相談できたことが本当に良かったです。我が家は徒歩で通園していましたが、帰り道は私の気持ちも前向きに明るくなり、息子もたくさん身体を動かしたりお友達に会ったりしたことで良い顔つきになっていたように感じます。

通園のきっかけとなった「言葉の遅れ」と「場所見知り」についてはまだ課題はありますが、少しずつ成長が見られるようになりました。何より、息子との関わり方、息子のタイプを客観的に教えていただけたことが嬉しかったです。

親子で充実した時間を過ごすことができました。本当にありがとうございました！

Y・Mさん(2歳児)

通い始めた頃は、周りの子と比べてしまうことが多く、出来ない事にばかり目を向けてしまい、子どもとの向き合い方も分からず、不安だらけで、成長への期待をしないように過ごす日々でした。

初めは手応えも感じられず、今やっている遊びがどうすれば出来るようになるのかと気を張っていましたが、少しずつ子どもを理解したい、どう接したら興味を持ってもらえるか、子どもと向き合う心の準備が出来てきたように思います。

毎回子どもをよく観察して、明るく向き合って下さる先生方を見て、接し方の根本から見直す事が出来るようになりました。子どもだけでなく親にも向き合って下さるので、親子で通う事が大変だな疲れるな、という気持ちよりも、親子で安心して楽しめる場所になりました。

保育園に通っているので子どもと向き合える時間は少ないですが、カンガルーに通ってから期待よりも子どもが成長してくれて、先生方や保護者の方とも一緒に子どもたちの成長を喜び合う事が出来て、心から感謝しております。

Y・Yさん(4歳児)

先生方とお話をたくさんさせていただいて、私(親)が息子にどうなって欲しいかということをとたくさん考えさせられました。それまでは集団に合わせられないことで、保育園に迷惑がかかっているんじゃないかと悩んだり、子供にどう向き合えば変わってくれるんだろうかと考えたり、解決策を求めてちょっと思い詰めていたなと思います。あすなろの先生方と話して、息子に合った対応と一緒に考えていただいたことで、保育園の先生方とも共有できて、息子ものびのびやらせてもらえて、毎日とても楽しそうです。他の保護者の方々の話も聞けて参考になったり、共感したり、とても得るものが多い時間でした。本当にありがとうございました！



～お知らせ～

年2回、関係機関の皆さまにも送付させて頂いていたこもれび通信ですが、今後は当学園ホームページに掲載させて頂くこととなりました。来年度以降も7月と3月発行予定となります。ご一読いただけましたら幸いです。